

我が国のグローバルな課題への取り組み
～「フルキャスト・ディプロマシー」の展開と協力フロンティアの拡大～

外務大臣 玄葉光一郎

(平成24年2月28日、於：政策研究大学院大学)

(ミャンマー関連部分)

今日は、ミャンマーの大使もご出席と聞いていますが、こうした人間の安全保障の1つの実践例として、我が国が続けてきたミャンマーに対する支援が挙げられます。現在、防災や保健分野で50億円規模の支援を準備しています。今後も、NGOとも連携して保健、教育等の民生分野や、少数民族も恩恵を受けることができるような支援を推進します。

昨年12月にミャンマーを訪問し、現在進行している民主化や国民和解に向けた動きが本物であるというのが私の実感です。その後も多くの政治犯が釈放され、少数民族との停戦合意が精力的に進められるなど、前向きな動きが急速に進展しています。4月1日の補欠選挙が自由かつ公正に実施されるよう強く期待しています。

このようなミャンマーにおける前向きな動きを更に加速させるためには、本格的なインフラ整備が不可欠です。そのためには、借款の再開が必要であり、国際社会に対してミャンマーが有している延滞債務問題の解決に向けた全体的な道筋をつけなければなりません。日本は、ミャンマーの持続的発展と民主化、国民和解の進展のために、国際社会において主導的な役割を果たしていく考えです。

我が国は、本年4月21日に、東京で日メコン首脳会議を予定しており、こうした問題についてテイン・セイン大統領と話し合う良い機会となるのではないかと考えています。円借款を含む本格的な支援の再開に向けて、こうしたタイミングも念頭に、ミャンマーに対する現行の援助方針の見直しの検討を指示したところです。